

27 MAR 2003



第19号

日米エアフォース友好協会

だより

Japan America AF Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会

〒105-0004 港区新橋 5-25-1-3

編集：J A A G A 事務局

印刷：財団法人 防衛弘済会

「コロンビア」の事故に想う

—— 空に生きるものたちからのレクイエム ——

会長 石塚 勲



Gen (Ret.) Ishizuka

米東部時間2月1日午前9時過ぎ、スペースシャトル「コロンビア」は、米本土上空約63,000メートルで空中分解し、搭乗していた宇宙飛行士7名が職に殉じた。女性2名を含む全員が40代で、1969年のアポロ11号による月面着陸に感動し、宇宙への夢を育んだ世代であったと考えられる。シャトルの重大事故は、1986年1月のチャレンジャー爆発事故以来88回目の飛行で生じたものである。

大事故の一報を聞いて、元在日米軍副司令官チャールズ・ボールデン海兵隊少将（当時）の心情に思いを馳せた会員も多かったことであろう。シャトルの操縦士及び船長であったボールデン少将は、1999年2月のJ A A G A講演会で、宇宙の素晴らしさとチームワークの大切さについて情熱を込めて語り、我々に深い感銘を与えた。

J A A G A会員は同じ空に生きた者として、散華された搭乗員の理想と情熱に共感し、勇気を称え、深い哀悼の誠を捧げると共に、今後も米国が宇宙に対して飽くなき挑戦をし続けることを願って、会長名で米国在住の名誉会員及び在日米空軍司令官ワスコ中将对してメールを送った。

本年は時恰も、ライト兄弟がキティホークの砂丘で、人類最初のエンジン付飛行機による飛行に成功してから100周年日にあたる。この間の航空宇宙技術の長足な進歩は瞠目に値するものであるが、高真空、微小重力、激しい温度変化や放射能など宇宙特有の厳しい環境条件を克服して有人システムを構築・維持・運用することは、人類が未来を拓くために超えなければならない困難な挑戦に違いない。

我が国政府は、2002年6月19日の総合科学技術会議（議長：小泉純一郎首相）で、「今後の宇宙開発利用に関する取り組みの基本について」の報告書を議決した。そこには、「宇宙に活動の領域を広げる事は、人類にとって、大航海時代の冒険にも相当する広大なフロンティアの開拓であり、あらたな可能性への旅立ちである。高度な技術と高い経済力、緻密な計画性と優れた知恵、勇気と大胆さを併せ持つ国だけが、今日、其の一步を踏み出している。」とある。

米国は人類の宇宙開発をリードしている。シャトルは我が国を含め世界各国の宇宙飛行士の活動の機会を与え、日米欧ロなど15ヶ国が参加する国際宇宙ステーションの建設に不可欠の宇宙往還機であり、人類共通の宇宙輸送機の役割を果たしている。ブッシュ大統領はテレビ声明の中で、「(7人の乗員が)命を捧げた活動は続けられる。我々の宇宙への旅は続くのだ」と語って、米政府が今回の事故の衝撃を

乗り越え、宇宙開発計画を継続することを確認した。

私は、このブッシュ大統領の声明に対する米国民の支持を賞賛に値するものと考えます。米国は、17年前のチャレンジャーの事故後に要した2年8ヶ月の飛行停止よりも遥かに短期間で、必ずや宇宙に対する果敢な挑戦を再開することであろう。

我が国も、今後の宇宙開発利用の重点分野の一つに安全の確保（安全保障・危機管理）を掲げている。宇宙への挑戦を継続するためには、国民の支持が益々

重要かつ不可欠であるが、今般のこの痛ましい事故を果敢に乗り越えて、日米双方の国民なかんずく“空に生きるものたち”が一致して日米双方の宇宙プロジェクトを強く支持していくことが、命を捧げた勇敢な飛行士たちへの最大の手向けとなると信じて疑わない。ここに改めて“勇敢な飛行士たち”に対し深甚なる哀悼の意を表すとともに、心からの冥福を祈るところである。

石塚会長からの弔慰文

Dear Gen ooooo,

On behalf of all members of JAAGA, I would like to express my deepest condolence to the accident of your space shuttle “Columbia” on the first of February in the United States.

I very much admire the bravery of the US which has been leading the program and astronauts who joined it, both knowing its difficulties.

I am sure your people will overcome those difficulties by changing the sorrow into the lessons.

Gen(Ret.)Isao Ishizuka President, JAAGA

第5空軍司令官からのメッセージ

Dear our friends in JAAGA,

We appreciate the wonderful heartfelt expressions of condolences that we have received, and we honorably appreciate the friendship expressed in those notes.

Following an in-depth review of the accident, we will continue our space exploration in honor of those who died. Thank you.

Thomas C. Waskow Lt. Gen.5 AF/CC

各名誉会員からのメッセージ

Dear our friends in JAAGA,

Thank you for your kind words. As you and I both know, there several occupations that are hazardous, such as space and flying fighters yet there are no lack of volunteers

to do either. There is something in human nature to volunteer for these duties built into our system and although it is very sad event, the American people feel strongly that we must press ahead because of all the good it does.

Again thanks for your thoughts.

JB Davis Gen. USAF, Retired

Dear Gen Ishizuka,

Thank you so much, and please convey my thanks to the members of JAAGA as well. These were brave men and women who do honor to us all.

Best regards,

Dick Hawley General, USAF, Retired

Dear friends in JAAGA,

Thank Gen Ishizuka for your very kind words as well as from the members of JAAGA. We all appreciate them very much.

Myers, Richard B. Gen. JCS CJCS

Dear our friends in JAAGA,

We thank Ishizukan and all the members of JAAGA for their unfailing support. We could not ask for better friends.

Eberhart Ralph E Gen NORAD-USNORTHCOM/CC

Dear our friends in JAAGA,

Thank you all for sending these kind sentiments. The Columbia accident was one of those very rare events that captures attention and strong emotions from just about everyone. Space travelers hold a special place of honor and esteem with people everywhere, and rightfully so.

As we recover from this tragedy and get past all the politics, I think there is a strong consensus that we should find the cause, fix it, and continue to push the space frontier.

Thank you again for your concern and support.

Warm Regards,

Skip Hall Lt. Gen. USAF, Retired

Dear our friends in JAAGA,

Many thanks for the note of condolence. We are in great disbelief at this tragedy. So much to be learned by the exploration of space and yet it is such a dangerous mission to go and return. Thank you for your thoughts and concern.

Paul Hester Lt. Gen/AFSOC/CC

JAAGA講演会：中東情勢

藤井空幕調査部長の熱弁、参会者を魅了



Maj. Gen. Fujii

恒例のJAAGA講演会は、空幕調査部長藤井泰司空将補を講師に1月31日グランドヒル市ヶ谷で会場満杯130余名の会員参加の下、盛大に開催された。論題の本質に迫りながらウィットとユーモアで聴衆を惹き付ける藤井調査部長の「泰

司節」はWalking Speaker!!としても既に定評のあるところ、「中東情勢について」と題した今般の講演は、イラクの大量破壊兵器査察に係わる諸問題に世界的関心が寄せられている絶好のタイミングということもあって、多くの示唆に富んだ極めて有意義なものとなった。

「中東問題は？」と問われて「よく分からない！」というのが我が国大方の反応と云われる中、自衛隊のゴラン高原派遣という現実を背景に、藤井調査部

長は先ず、広く関係諸国の兵要地誌についての基礎的事項から論を起し、これまでの長く複雑な歴史的経緯そして湾岸戦争や同時多発テロさらにアフガン問題等々の最近の動向について分かり易く話題を展開した。そして混乱期のフィリピンで防衛駐在官として活躍した自らの経験則を座標軸に組み入れての幅広い分析を基盤に、中東問題に関する緻密にして且つ大胆な将来洞察をもって締めくくり、参会者を魅了した。

講演終了後、石塚勲会長より、臨場感、緊張感みなぎる講話に対する謝辞があり、また日米関係をサポートすべきJAAGAの論題として「中東問題」を選択して、日米間の当事者意識の共有に努めるという目的が達成され、本講演会が大成功であったとの所見が述べられた。また引き続き催された懇親会では、田村秀昭議員のご挨拶を混じえ、旧交を温める参会者相互の予定時間をオーバーしての懇談後、散会した。



The audience of JAAGA Lecture

東京都防衛協会青年部横田基地研修

—— 熱心な研修・活発な質疑応答 ——



常務理事 越智通隆

1月31日(金)10時福生駅に集合した防衛協会青年部の23名は期待に胸膨らまし福生ゲイトをくぐった。本年度J A A G A企画の第2段である。このシリーズは昨年からは始まり、今回で通算4回目となる。第1回目は帝京大、2回目は政策学院大学、3回目は上智大であった。当初は昨年12月6日実施の計画だったが、青年部のなかに市議会議員の方が多く議会開会中とのことで繰り延べとなった次第である。希望者を募集したところ42名の方が希望して頂いたが、会議場のスペースの関係上等で23名となった。J A A G Aは林昭彦理事と私の二人が参加した。1月31日はあいにく日米総合演習の最終日でワスコー司令官は不在のため、在日米軍副司令官のシェイ海兵隊少将に担当していただいた。東京都防衛協会理事渡邊眞氏、青年部長梅田俊幸氏、今回研修担当の立川市青年部長尾崎精一氏の代表者

3名と我々J A A G A 2名がシェイ副司令官室に表敬訪問した。その後会議室でシェイ副司令官主催のもと、シャグ作戦部長、ウォジンスキー広報部長等在日米軍司令部の幕僚10名陪席のもと、約1時間に及ぶ在日米軍の状況についての懇切丁寧な説明があった。いよいよ質問タイムに入り、日本人特有の恥じらい文化である質問なしという事態を恐れていたが、現役の市議会議員が3分の1の多くを占めていた事もあり、また常日頃から防衛問題に関心を持っていることもあってか極めて多くの質問があり、米側も大変充実した時間となったことを喜んでた。今回の参加者は横田基地の近隣の日野市、青梅市、立川市、小平市、町田市出身の方々であるためか横田基地共用飛行場の希望関連の質問もでた。せめて自衛隊との共用はどうかとの発言もあった。石原都知事の持論である管制権見直しの話にも及んだ。イ

ラク攻撃目前と云われている状況の中、米国は世界により一層の説明責任があるのではとか、イラクと北朝鮮のダブルスタンダードとも思える米側の対応等微妙な内容の質問もあったがその都度シェイ副司令官に懇切丁寧に答えて頂いた。予定の時間を大幅に越え、続きは昼食会ということになり、オフィサーズクラブでのシェイ副司令官主催の素晴らしい雰囲気の中での懇談会兼昼食会となった。午後は広い基地内をその由縁等の説明を受けながらC-9(通称ナイチンゲール)の研修を実施した。午後3時過ぎ全研修を終了した。一同余韻さめやらず福生駅近くで全員参加しての打ち上げ会となり我々2名も誘われるまま早めの夕食会を兼ねた懇談会に出席



Luncheon at Yokota AB

した。この席で林理事からJ A A G Aの活動状況について説明するとともに更に興味のある方は賛助会員や法人会員への道もあることも併せて紹介した。

横田基地見学を終えて

東京都防衛協会理事、前青年部長 渡 邊 眞

東京都防衛協会青年部は日野市、立川市、青梅市、西東京市、清瀬市、東久留米市、小平市、奥多摩町、練馬区の9区市町の防衛協会に所属する青年部の連合体として組織され、全会員300名の構成員からなります。現在日野市の梅田俊幸市議会議員が昨年から第二代目の青年部長を勤めています。東京都防衛協会青年部として、毎年夏に幹部研修会を以下の如く実施してまいりました。

1. 平成10年度 立川駐屯地研修と活動報告会
2. 平成11年度 青梅市商工会館で研修と活動報告会
3. 平成12年度 保谷市防災センター研修と活動報告会
4. 平成13年度 日野市民会館で中條高德氏講演会と活動報告会

そして、平成14年度として立川防衛協会青年部(尾崎精一部長)の主干で横田基地見学をおねがいましたものであります。今回の見学ではJ A A G Aの越智通隆さんに横田基地との折衝で大変お世話になりました。また大串康夫さんにはこの見学のアイデアを御提案頂き、林昭彦さんには見学当日に越智さんとともに参加して戴きました。御三方に心より感

謝申し上げます。見学当日の1月31日は月末しかも週末ということであり、欠席者が約10名出てしまいましたが、充実した研修が出来ました。

ブリーフィングルームでの大画面を用いた説明会では、

1. 米軍が日本に駐留する理由
2. 在日米軍の要員、活動(抑止、訓練、防衛、支援)
3. 周辺事態安全確保法、S A C O
4. ホストネーションサポート(日本の支払う駐留経費など)

の説明を受けました。

その後のシェイ副司令官と各部長との話合いでは、

1. 「ノドン、テポドンの射程内にある米軍基地の不安と独自政策」の質問に対し、政治が決めることであるが、日米共同でミサイル防衛技術開発が進んでいること、防衛庁がBMD配備の方向に進んでいるように思えることを喜ぶとの答えがありました。

2. 「ともに大量破壊兵器を所有するアメリカが北朝鮮とイラクを抑止する根拠の理論武装」の質問には、大量破壊兵器を所有し、運搬する能力を持つ国はすべて脅威であり、イラクと北朝鮮をこの

ままにしておいた場合の世界平和に対する危険を説明されました。

3. 「横田基地の民間共用や空域返還で米側は困るのか」に対しては、横田基地は案外狭いとだけ説明があり、あとは政治が決める事であると言われました。

優秀な通訳が相互の会話を合致させるように御努力はされてはいましたが、副司令官と各部長の話はやはり政治向の話と秘密の話は出来ないという事で所謂突っ込んだものにはならなかったように感じました。

昼食の際にも、私はシェイ少将と同じテーブルでした。少将は個人的にエドウィン・ライシャワー博士の「ライシャワーの日本史」を読んで、感銘した事、京都、奈良そして北京に行きたいとおっしゃっていました。少将に話掛ける事が多く通訳の方が満足に食事出来なかったようでした。申し訳ないことでした。

昼食後、バスで基地内を一周し、東のエプロンで駐機しているC-9 ナイチンゲール輸送機を見学し、若いパイロット2名(中将)が機体の内部を詳細に説明してくれました。この機体は一旦有事の際に、朝鮮半島から戦死者、戦傷者を日本に輸送する役割を負っているわけですが、8ヶ月前までオクラホマにいたという若い中尉から、「その場合非常にタフな仕事になるだろう」ということを言っていました。

私たちは戦傷者が多数で米軍基地内病院で手に余る時を想定して(その場合、われわれの想像をはるかに越える数がやって来るかも知れない)、市立病院などの協力が得られるように、地元自治体に働きかけなければならないと感じました。その病院を結ぶネットワーク体制の構築、傷者輸送と治療の平時からの訓練が是非とも必要だと考えます。

基地を離れる時、在日米軍司令部であればやはり司令部としての中樞部、アジア全体が見渡せる大画面と多くのコンソールの並んだコントロールセンターなどが見学出来れば良かったなどと、無理難題を考えておりました。

温かった冬の午後、奥多摩や丹沢の山々、遠く雪に輝く富士山を望ながら基地を離れ、福生駅までバスで送って貰いました。その後、近く中華料理店で梅田都青年部長、尾崎立川青年部長、越智さんの挨拶の後、参加者全員でビールを酌み交し、青年部が相互の紹介を行い、林昭彦さんからJ A A G Aの活動の紹介を受け、これからの日本の防衛に対するお互いの貢献を誓って解散しました。今回の見学では横田基地広報部の方々には一方ならぬお世話になりました。またJ A A G Aの役員の方々には大変なご苦勞をお掛け致しました。この研修がこれから各市の防衛協会活動を担う幹部のために大いに役立ったと確信しております。ありがとうございました。

横田基地研修会に参加して

立川市防衛協会青年部部长 尾崎 精一

毎年恒例となっている東京都防衛協会青年部の研修会が平成15年1月31日(金)に23名の参加者を得て行われた。この研修会については、毎年夏ごろに行われていたものだが、日程の都合と今回の研修の主幹を仰せつかった私が不慣れであったため、この時期になってしまった。また米軍のスケジュールの問題もあり、ウィークデイにせざるを得なかった。しかしながらこちらの予想を大きく上回る参加者があり、文字通りうれしいがっらい悲鳴をあげる事になってしまった。

当初実は私が立川市在住ということもあり、立川市にある二つの駐屯地で何かできないかと考えていたが、日野市の渡邊眞、東京都防衛協会顧問より、横田基地の見学ができるとの提案があり、状況的にもこちらの方に魅力を感じ今回の研修会となった。

当日は10時に福生駅に集合し、米軍のバスにて基地へと移動した。ただ直前に数名の方より、仕事の都合上どうしても行けなくなったとの連絡があり、残念ながら前述の参加人数となってしまった。

さて、私は隣接する市に住んでいながら実は一度

も横田基地には入ったことがなかった。いわんや在日米軍副司令官と会見するという事など考えたこともなかったので我ながら情けないと思ったが、バスが基地内に入っただけで緊張してしまっただけ。その上、シェイ副司令官の部屋へ表敬訪問する段に至っては何をどうしていいか、まったくわからないという状況に追い込まれてしまった。(自慢にはならないが私は結構肩書きに弱いのであった)また、今回の研修の目玉であるブリーフィングルームでの説明会と質疑応答でも、自分の不勉強さが顕れてしまったようで問題点を整理することができず、大変残念な思いをしてしまった。

ブリーフィングルームでの内容としては、まず一般的な在日米軍の意義、活動等に関するレクチャーがあり、続いてはシェイ副司令官と各分野の専門スタッフによる質疑応答があった。質問はまず在日米軍の防空体制についてから始まり、北朝鮮、イラクをめぐる問題へと発展した。私としてはやはり北朝鮮の問題に興味があったが在日米軍としては、個別の対北朝鮮という次元だけではなく、武器を保有するすべての国に危険があるという立場に立っての返答ということで多少の物足りなさがあった。その他自衛隊との協力体制、横田基地の民間機受け入れについて等、様々な問題の質疑応答があった。

やはり言葉や立場上の問題もあり(私を含めた)素人がいかにも喜びそうな返答はなかったが、日々現実の緊張の中で仕事をしている様が見てとれた。これだけでも参加して良かったと考えている。また時間については、予定の時刻より大きく延長してしまっただけで、それを快く受け入れてくれた米軍の皆様には、あらためて感謝を申し上げたいと思う。

引続き、シェイ副司令官を始めとした将校の皆様方と、大変なごやかな昼食会があり、次にC-9ナイチンゲールの見学研修を行い、横田基地での研修は終わった。

次席の懇親会では、各市青年部並びにJ A A G Aより活動内容等の報告があった。また横田基地で受けた印象や最近の防衛情勢などを短い時間ではあったが熱く語り合った。私としても本当にいい研修ができたなとうれしく思い、少し肩の荷が下りたような気がした。

最後になりましたが、今回の研修に際しては、J A A G Aの皆様には、一方ならぬお世話になりました。おかげさまでもちまして大変立派で、有意義な研修を行うことができました。この場をお借りして心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

会 員 募 集

J A A G Aは、創立7周年を迎え、更なる前進を目指して個人会員の会勢拡大に努めております。会員の皆様の勧誘、推薦、情報提供に関するご協力、ご支援を是非とも宜しくお願い致します。なお、個人会員につきましては、次のとおりです。推薦若しくは情報提供を頂いた方には直接会員担当の係から連絡させていただきます。

【入会資格】 正 会 員 : 航空自衛隊のOB
個人賛助会員 : 航空自衛隊のOB以外の方で、正会員3名の推薦が必要です。

【連絡先】

「郵便」 〒105-0004 東京都港区新橋5-25-1-3
日米エアフォース友好協会 会員担当行

「電話」 03-3219-5638 細 稔(株)島津製作所
03-3489-1120 尾崎利夫(東京航空計器(株))
03-3212-3111 村岡亮道(三菱重工(株))
03-5400-4721 宇都宮 靖(横浜ゴム(株))

正会員基地研修

「緊張高まる横田基地で暖かい歓迎」 伊藤英彦氏を団長に 22 名が横田基地を研修



研修の概要

常務理事 清水 正 睦

平成 15 年 2 月 13 日(木) J A A G A 正会員の横田基地研修が行われた。

この研修は平成 12 年 11 月以来 2 回目であり、昨年度計画したが、一昨年(2001)年の 9.11 事件及びその後のアフガン情勢で米側が対応できず延期され、今年度再度希望者を募って実行されたもので伊藤英彦氏を団長に 22 名がイラク情勢で緊張が高まる横田基地を研修した。

研修参加者一行は当日 J R 青梅線福生駅に集合したのち出迎えの米軍バスに乗り、定刻の 10 時に基地第 2 ゲートに入門し、憲兵隊のパトカーの先導を受けてイラク情勢で緊張の高まる中にも拘わらず、

ゲートから主要道路両側に並ぶ歓迎の日米国旗にまず驚かされた。天候にも恵まれ司令官以下の基地による暖かい応対を受けた研修を報告する。

入門後一行のバスは、この日は保安上の理由から多くの車が主要施設の駐車場から締め出され、黄色の遮蔽柵の施された道路に駐車してあるという状況の中で第 5 空軍司令部までも迂回して、ワスコ司令官、フィンドゥリー副司令官の出迎える玄関に到着した。司令部前で記念撮影の後、伊藤団長は中司・清水両常務理事随行のもと司令官室で表敬の挨拶をした。

第 5 空軍司令部におけるブリーフィングは司令官臨席のもと全幕僚が陪席し、冒頭司令官から J A A G A 正会員の基地研修を心から歓迎する挨拶を戴き、第

5空軍の現状、日米協同訓練、日米下士官交換研修、基地整備等について実施された。特に交換研修については小牧基地に行った下士官3名が有意義だった旨の所感を述べた。

昼食会は基地オフィサーズクラブにおいてJ A A G A主催で実施され、正副司令官の他、司令官の配慮でこれからを担う初級幹部、下士官が参加した。彼らも少し日本語の心得があるということで英語・日本語の混ざった楽しい会話が各テーブルで行われた。

午後の研修は374輸送航空団司令部において、兼ねて基地司令のスターズ大佐による航空団の現状と横田基地に係わる諸々の問題点、対策等の説明から始まった。会員からも質問や基地対策に対する提案がなされた。地元の石川武会員からは福生・横田クラブは、今J A A G Aの名誉会員になっているデビス司令官の時に出来たという説明があった。その後飛行場地区において、米空軍支援の嘉手納から来た空自のC-1と米C-130による貨物の積み下ろしの比較が実施された。補給倉庫では航空貨物の流れの説明があり、現在横田の全空輸量の9%を空自が支援しており大変感謝していた。

その後バスツアーで基地内研修を兼ねて、国道16号線を超えて西部地区に入り昔F E N（極東放送）と呼ばれた現在のA F N（American Forced Network）を見学した。英語の勉強をした810KHzのラジオ放送も基地内のケーブルテレビもデジタル化しており、米国内でも最も先端を行っているとのことであった。

司令官が夜のパーティーで手品と表現されたが4時過ぎにC-17が飛来急遽見学することができた。内部は見掛けによらず大きく、空自もC-Xの早期取得が望まれる。胴体の前部下面、後部側面には対赤外線ミサイルのフリーアが装着されており昨今の緊張が窺えた。

夕刻は司令官官舎において歓迎パーティーが行われ、J A A G A石塚会長、石川副会長、村木理事長も合流されて楽しい宴となった。宴の冒頭司令官の歓迎挨拶、石塚会長のお礼の挨拶があり、宴の終わりに今研修の伊藤団長が締めの挨拶をした。最後に司令官ご夫妻の暖かい見送りを受けて横田研修は成功裡に全てが終了した。



Briefing at HQ 5th AF

ワスコー司令官主催夕食会での伊藤英彦団長挨拶

(在日米軍司令官公邸)

Good Evening General Waskow,
Ladies and Gentlemen,

It is an honor for us to participate in this friendly gathering, and I would like to express our sincere gratitude to our host for arranging it despite the increased level of security under which you must be operating these days.

At no time in the past has the Japan-US Alliance been more stable and solid than it is today. However, at the same time, at no time in the past has our alliance faced a greater external challenge than it is facing today.

It is in the face of such greater challenge, however, the value of our alliance should be proven.

It is important, we believe, that the US-Japanese friendship be confirmed at every level of both communities.

Now, more than ever, Japan is expected to, and should, step up to the plate. US has been there for years for us.

I would like to believe, that by participating in this event this evening, we are making a modest but clear statement in reaffirming the high regard in which US Air Force in Japan will always be held by us.

Thank you again for your hospitality,

研 修 所 感

山 岡 靖 義

ゲートをくぐると、道路沿いに日章旗と星条旗がずらりと掲げられていた。降したての旗の折り目が朝の陽射しにくっきりと浮かび、そよ風に靡いている。実に清々しい。J A A G Aの訪問を歓迎してくれている気持ちが伝わってくる。第5空軍司令部前ではワスコー司令官をはじめスタッフ一同が私たちを待っていてくれた。

ワスコー司令官は、歓迎挨拶の中で「フォース・プロテクションが2段階になったので不自由をおかけして申し訳ない」と述べられた。イラクから離れている横田基地でもそうなのか、流石にグローバル・パワー、グローバル・リーチの米空軍であると感じた次第である。

ミッション・ブリーフィングが始まった。デイブ少佐の説明は淀みが無い。続いて、日米相互下士官部隊研修の成果報告に移った。会場に研修要員のベンジャミン伍長、トリシア伍長、ブレント伍長が待機していて、小牧基地での研修成果を報告してくれた。先ずベンジャミン伍長がフリーハンドで報告した。落ち着いていたが、ワスコー司令官が「我々と違った手順は有ったか」「基地生活で良かったこと

は何か」と助け舟を出され、緊張している部下の気持ちをほぐされる場面があった。

ブリーフィング後半にハプニングが起こった。英語と日本語で表示されていたパワーポイントの同期がずれたのだ。どうするかと、一同は緊張した。そのとき、日本側ブリーファアの秋元1曹がパパッ・パパッと画面を戻し、同期を取り直した。正に点瞬の間の早業である。見事だった。ワスコー司令官が「good job」と頷いた。私たちが惜しめない拍手を送った。

食事の後、第374輸送航空団を訪問。空自のC-1とUSAFのC-130の貨物積み下ろし作業用車両ターナーローダー（将軍のお名前）を見せてくれた。ペイロード30トンの特殊車両で8輪のうち4輪づつ逆ハンドルが切れる。回転半径が小さいのがご自慢である。他にハルパーソンローダーと言う小型車両も有った。

ついで第730空輸部隊に行く。部隊マークがpori dawgs（猛犬部隊）である。積荷の発送先の看板は、グァム、コリア、シンガポール、タイ、バーレーン、アラブ首長国連邦、ドバイ、ヒッカムとなっている。

部隊名の通り、エアーマンたちにはスキンヘッドのいかつい男も居るが、身体の手入れがよく若々しい。案内してくれた第5空軍副司令官フィンドウリー准将は豪放磊落な親分肌の人で、出迎えた部下の腕を抱き、肩に手をかけてねぎらいの言葉を掛けてゆく。空軍の勤務を心底からエンジョイしている様子である。部下も、ニコッと笑みを浮かべ、必ずお礼の言葉を述べている。このような情景は羨ましい。これぞUSAFである。人間関係のインターフェイスが極めてよい。軍隊で大事なものは人間関係なのだ。省みて、私の現職時代はどうだったか。上司と部下の間柄では、ひたすら堅く敬礼を交換し、緊張するばかりではなかったか。

部隊研修が終わったところに、C-17が着陸するという嬉しい誤算があった。案内のフィンドウリー准将の声が一段と大きくなり、早口になる。飛行距離延伸のため機内天井に増設タンクをつけたところや、操縦桿（輪ではない）がついていて、物量投下用のHUDが備わっているコックピットを案内してくれた。

最後の研修先はAFN（元のFEN）であった。ラジオ・テレビの放送設備は総てがデジタル化され、番組はハードディスクに収められていた。放送用のパソコンはGATEWAYでありOSはWINDOWS-NTと2000が半々である。なるほど、これならハングアップしないだろう。外付けのハードディスクは9GBのものが6つ並んでおり、池上通信機製であった。画面の表示を見ればダイレクトリ構造がおなじみのWINDOWSである。少し教われれば操作できそう。担当者が番組のアイコンをクリックすると「ジャーン」と音楽が鳴り動画が出て来た。レスポンスが早い。

テレビは4チャンネル有るがケーブルテレビなので私たちは見られない。チャンネル内容はニュース、AFNアルマナック、AFNパシフィック及びスペクトラムという区分になっている。日本の皆さんには810KHZのラジオをよろしく願いますということであった。

夜のパーティは、ワスコー司令官御夫妻に迎えていただき、暖炉の炎の前で丁重な歓迎の言葉を戴いた。続いて石塚会長がお礼の挨拶をされた。和やかに感謝の気持ちを述べられ相互理解が一段と深まった印象である。懇談の後、伊藤団長が感謝のスピーチをされ、皆さんのお見送りを受けて研修を終了した。

久しぶりに横田基地を訪問し、思い出したこと、学んだことが沢山あり有意義であった。特に、印象に残ったのはワスコー司令官のJAGAに対する親愛の情である。イラク情勢の厳しい折にもかかわらず、VIPの視察として準備をなされ、暖かく迎えていただいたお気持ちを大切にしたい。

日米相互交流支援

有意義な日米NCOの相互交流

J A A G Aの支援にワスコー司令官からも謝意

平成15年1月17日午後、村木理事長は、中司渉外理事を伴い米空軍横田基地の第5空軍司令部を訪問し、ワスコー司令官並びにフィンドリー副司令官立会いの下、先任下士官のオニール曹長に対し、「日米双方に有意義な相互交流がますます発展し、実り多き果実を生むよう期待しております。目的を成就すべく自由に使用して戴きたい」との趣旨を述べ、J A A G Aからの支援金を手渡した。

席上、ワスコー司令官は、「本交流計画は、日米

相互の信頼基盤を拡大する上で多大な貢献をしており、近年、一層充実して来ている事に大変満足している」と述べ、本計画を高く評価すると共に、J A A G Aの支援に感謝の意を表された。

14年度の交流計画は、従来よりも受入基地を拡大して日米それぞれ3基地において、また交流隊員の特技も拡大し、相互に5～7名の隊員を送り込んで実施された。実施状況は次のとおり。

	基地名	参加人員	実施期間
日本側受入	小松	7	14年10月2日～10月11日
	小牧	7	15年1月27日～2月5日
	千歳	7	15年2月24日～3月7日
米国側受入	嘉手納	5	14年12月2日～12日
	横田	6	14年12月2日～12日
	三沢	7	15年3月10日～27日

先般の正会員横田基地研修時に、米空軍から参加した航空機整備、空中輸送員及び衛生特技の男女3名の伍長と会う機会があった中司渉外理事によると、彼らは、交流が特技分野での実技、意見交換に止まることなく、今までの日本滞在では経験出来なかった日本文化の理解、空自隊員との意思疎通等にこのプログラムが極めて有意義な貢献をしているとの所

見を異口同音に述べたという。また、将来的には、交流事業を現在の日米幹部の相互派遣制度のような正規の事業化への格上げの希望も示されたとのことであった。

J A A G Aとしても本交流計画の意義を踏まえ、今後とも暖かい支援を続けていきたい。

J A A G Aホームページ

URL : <http://www.bouei.com/groups/jaaga/>

本ホームページにアクセスするには、これ迄は防衛ドットコムでの会員登録の手続きが必要でしたが、4月からは必要なくなります。上記のURLにアクセスして下さい。

日本での活躍を期待し、米空軍派遣将校を支援

J A A G A では、日米幹部相互派遣事業によって日本に派遣された米空軍将校に対し、日本での有意義な勤務と活躍を期待して物品貸与の支援を行っている。今年度は、昨年夏に小牧基地第5術科学校に着任した要撃管制教官のバージェス少佐に対し、同少佐の希望を受けて J A A G A から物品貸与の支援を実施した。本人への物品の提供は、平成 15 年 1 月 31 日に第5術科学校長外菌空将補を介して行われた。

なお、現在は 7 名の米空軍からの派遣将校が、全国 6 基地において活躍中である。



Maj. Burgess and Maj. Gen. Hokazono

バージェス少佐からのお礼状

I want to express my sincere appreciation to the members of JAAGA for their generous gift. In the short time I have worked as an exchange officer with the JASDF, I have learned many things about Japan. This was only possible with the help of many people, both Japanese and American. Through their hard work and assistance, I have become an integrated member of my JASDF unit, and contribute to the security and peace enjoyed by the people of Japan and America.

Perhaps the greatest lesson I have learned is the strong relationship between our countries is the result of the ideas and efforts of individuals who join together as a team to accomplish their common goals. The collective actions of the members of JAAGA build strong ties between the JASDF and USAF to ensure we understand each other and can work together as a team to maintain our freedom.

In my job as an instructor GCIO at Komaki AB, I teach students how to use radar to control aircraft for air defense. I use resources such as magazines, photos, and the Internet to prepare classroom lectures and study materials for my students. The combination Color Fax, Printer, Copy, Scanner machine I received from JAAGA will be very useful for preparing lessons. In the spirit of teamwork and cooperation represented by this gift, it will be connected to my office LAN so my JASDF co-workers can also benefit from it.

To all the members of JAAGA, thank you very much for your kindness and support.

CHARLES O. BURGESS, Maj, USAF
Air Battle Manager Exchange Officer, Japan

ウォータース准将は、去る7月、2年にわたる第5空軍副司令官としての勤務を終え、サウジアラビアにある第363航空団司令として栄転されましたがこれに先立ち横田基地における勤務の思い出を寄稿して頂きましたので紹介します。このシリーズは前回第35戦闘航空団司令（三沢）であったアターバック准将に続く第2段の企画です。

第5空軍の任務

ウォータース准将

(前第5空軍副司令官)



Brig. Gen. Waters

半世紀以上にわたり、在日米空軍と日本の関係は不朽であり特別であることを謳歌してきました。その関係とは21世紀において新しい重要性をおびてきているものです。事実驚くべき、そして予想もつかなかった昨年9月11日のテロ攻撃

事件のような世界規模の事件が頻繁に起こり、我々の同盟の重要性は以前にも増して益々大きなものとなっております。

第5空軍は日本における米空軍の前方展開です。その存在が我々の相互同盟の利益を守るにあたっての自信を奮い立たせることに貢献しました。

横田基地に位置しながら、第5空軍は太平洋地域での任務を遂行する太平洋空軍傘下の4本柱の一つです。

第5空軍司令官はトーマスワスコ中将で、彼は約140もの戦闘機と支援機及び約16,000人の隊員を保有しており、これは太平洋空軍の4本柱の中では航空機と人材の分野において最大規模を誇っているものです。

司令部のスタッフと共にワスコ司令官は日々航空自衛隊の方々と任務に従事し、パートナーシップを育て、二国間関係において更なる発展を促しています。

このパートナーシップは、第5空軍の主要な任務（スリー・フォールド・ミッション）を遂行するため日本全土に配備されたユニットと基地に滞在してい

る15,000人以上の軍人および軍属等によるものです。まず最初に太平洋空軍司令官より任された任務の下、第5空軍が作戦を立て、それを遂行し任務の指揮と調整にあたります。次に第5空軍は軍運用の完璧な完了の為に必要な即応性のレベル維持にもあたります。そして、もちろん決して重要性が少なくないものですが、最終的には、我々は日本との相互防衛同盟を支援し、作戦を立て、訓練し、そして日本とのパートナーシップにおける合同演習によって地域の安定を強化しているのです。第5空軍はこの任務を達成する為、そして日米両国の利益を守る為に、そしてもし万が一、抑止が損なわれた場合に備えて適切な運用が行えるように抑止力としての態勢を維持しています。

第5空軍は主に3つの組織、嘉手納第18航空団、三沢第35戦闘航空団、横田第374空輸団、から成り立っております。これらの3つの組織が合わさるととても多様で、しかも有能な組織となっております。そして航空と地上にわたる空輸作戦を遂行することが可能です。

第5空軍のエア・パワー・プロジェクションはいかなる危機に対しても地域平和と安定に影響する主要な柱です。これは地域侵略に対する活発な対応から人道支援を含む多数の低いレベルの有事にまで関わる選択肢を含めたものです。

この任務の役割りにおける我々の職務は規模、範囲共に多様化しており、しかしながら全てが地域への焦点と日米の利益の幅を共に広げております。

我々の任務需要を埋めることができているのはユニットに配置されたプロフェッショナルな隊員全員

のおかげなのです。これらのプロフェッショナルな隊員達は日々我々空軍の価値観の要である、「誠実第一、奉仕優先、全てに優秀」を掲げて実践しております。

米国と日本は長い間、国際的安全保障環境における変化に伴うように我々の同盟を発展させ調整しなくてはなりません。日米の安全保障関係に私は自信を持っておりますし、新世紀に向け我々が行動する

時には米空軍と航空自衛隊の協力が錨となって継続的にアジアの安全保障と繁栄を支援するのです。

この不安定な時代に、日米同盟の確実性は地域全体の平和、繁栄、そして安定が基づいている土台なのです。我々は共に、この挑戦に挑み、そしてこれまでの50年間の同盟より一層ダイナミックに繁栄していくであろうこれからの50年間を予見しているのです。

… 新入会員の紹介 …

1 新入会員

(1) 正 会 員

氏 名 勤 務 先	〒	住所・電話番号（上段：自宅、下段：勤務先）	
新 治 毅	136-0073	江東区北砂3-5-2-202	03-3615-7676
コーズ・アンド・カンパニー	105-0014	港区芝3-5-1	03-5730-1631
森 本 城 夫	192-0907	八王子市長沼町6-139	0426-36-1820
日立国際電気	164-8511	中野区東中野3-14-20	03-3365-9162
川 島 和 男	285-0925	印旛郡酒々井町上本佐倉1-8-1	043-496-0832
東芝社会インフラシステム社	212-8582	川崎市幸区小向東芝町1	044-548-5078
三 輪 泰 彦	900-0006	那覇市おもろまち4-10-18-608	090-7475-2905
テ ク ワ ー ル ド	900-0015	那覇市久茂地2-15-3	090-861-2466
木 下 和 美	482-0021	岩倉市新柳町1-35-3 1-1005	0587-38-0743
川 崎 重 工	504-8710	各務原市川崎町1	0583-82-2980
鈴 木 孝 雄	800-0025	北九州市門司区柳町1-8-18-1202	093-381-7151
日 興 技 化	801-0025	北九州市門司区野浦1089	093-321-5337
竹河内 捷 次	359-1132	所沢市松ヶ丘1-16-78	042-923-6656
梅 木 良 寛	358-0024	入間市久保稲荷1-12-3	042-965-8663
日 総 工 産 (株)	222-0033	横浜市港北区新横浜1-4-1 日総工産新横浜ビル	045-476-4211
富 樫 治 光	270-1144	我孫子市東我孫子1-3-16	04-7185-4602
JAL航空機整備成田	282-0011	成田市新東京国際空港内日本航空成田第3ハンガー	0476-32-3967
福 山 一 行	134-0088	江戸川区西葛西4-2-5-118	03-3804-5705
岩 崎 通 信 機	151-0053	渋谷区代々木2-4-9	03-5371-7381

(2) 法人賛助会員

法 人 名 代 表 者	〒	住 所	電話番号
スナップオン・ツールズ(株) キャロル・ジェン・クリーチ	105-0011	港区芝公園2-4-1 秀和芝パークビル A館12階	03-5463-1281
レイセオンインターナショナルインク ヒデキ・ハマモト	107-0052	港区赤坂2-11-7 ATT新館5F	03-3568-8060

2 退会・物故会員

(1) 退会者（15. 4以降）

相原義夫、朝倉 謙、板野安博、氏家英夫、内野英昭、大中康生、黒沢義昭、渋谷孝順、情野喜久雄、立山尚武、高田越夫、出水貞行、桜井忠成

(2) 訃 報

生越龍生（14.11.6）、斎藤嘉夫（15.2.6）、眞田泰穂（15.2.6）、高木作之（15.2.14）